どネットワーク

広見

住民相互のふれあいと思いやりのあるまち

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。

あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。4月は原田、5月は吉原地区です。連絡先…市内永田町1－100 市広報広聴課☎51－0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

△広見のメインストリート広見商店街

▶人　口　14,809人
▶世帯数　4,238世帯
(昭和62年1月1日)
▶面　積　3.49平方キロメートル

広見地区は、富士市域のほぼ中央、吉原市街地から北へ約二キロの位置にあります。地区は、緩やかな丘陵地に広がる茶畑を切り開いた広見団地と旧今泉地区の石坂地域、旧大渕地区の久保・若松地域の住宅地から成っています。

広見団地は、住環境に恵まれ、市街地まで車で十分という利便さから、アパート、社宅、公営住宅個人住宅が一挙に建設され、現在のような新興住宅地となりました。

このように広見地区は、造成団地を中心に、旧来からの町内（石坂、久保、若松、三ッ倉南）と近年新たにできた造成分譲地（桜ヶ丘、旭ヶ丘、百合ヶ丘、高山）の三つから成り立っています。

地区は完全なベッドタウン地区で、住民の年齢層は、三十歳代～五十歳代が多く、共働き世帯が多いことが特徴です。また、市内唯一の全地区組織として、広見コミュニティー推進会が結成され、母親のボランティア活動による広見文庫など、コミュニティーやボランティア活動の活発な地区です。

おじゃまします

地域に開かれたミニ施設

広見　あすなろ作業所

西富士道路の広見出口東側に小さな作業所があります。ここは、心身障害者の小規模授産所「あすなろ作業所」といい、作業の一つとして和紙の「はがきづくり」に取り組んでいます。

「ヒノキにまでならなくても健常者と一緒に生活できるようになれば」との願いを込めて命名されたあすなろ作業所は、心身障害者が作業を通じて社会復帰訓練をしているミニ施設です。

作業は「あすなろ」ブランドのトイレットペーパー製造と手すき和紙のはがきづくりをしています。

手すき和紙は原料にリサイクルされた牛乳パックとミツマタを使い、市立博物館から技術指導を受けています。冬、冷たい紙原料をすく作業はつらいものですが、慣れた手つきで分担された作業をこなしています。

あすなろ作業所の特徴は、地域に溶け込んでいることがあげられます。

地域のボランティアは自分のできる時間に、できることを気軽に手伝っています。

それにより、あすなろ作業所が助かるのはもちろんですが、障害者に対する理解もより一層深まっています。

指導員の遠藤さんは、「多くの人と接することで、障害者が明るくなりました。和紙はがきの品質向上が課題です」と語っていました。

△地域のボランティアとあすなろ作業所の皆さん

ぼちかい

我がまちを語る

渡辺伝次郎さん

石坂2(71歳)

住民参加が定着

団地のできる前の広見地区は、石坂、久保町などが点在するだけで、一面が畑でした。

今から二十五年ぐらい前に、広見団地をつくる話が持ち上がったとき、地元の人々は「団地ができれば自分たちの生活もよくなるに違いない」と協力的でした。当時、この地区の小学生は今泉小か大渕第一小へ通うしかなく、団地の造成により小学校が近くにできるということだけでも魅力でした。

そして今、博物館や福祉センターなど多くの公共施設ができ、住民はまちづくりに熱心です。独自の自治組織「広見コミュニティ」に示されるように住民参加が定着しているまちと言えます。

広見に生まれ育った子供もすでに成人となり、これからは新しい伝統が築かれていくと思います。

行政には、団地の周辺地域の整備を要望したいですね。

クローズアップ人

消防出初式写真コンクールで市長賞を受賞

一条義明さん

入山瀬久保(46歳)

百二十七点の作品が寄せられたことしの出初式写真コンクールで一条さんは見事市長賞を受賞しました。

受賞作品は黒い制服姿の団員が行進している様子を、スローシャッターで巧みにとらえたものです。

「昨年、作品に動きがないという講評があったので、動きの出る作品を狙いました。でも、自信のない作品だったので驚きました。」との感想。

「写真は六年前から始めたばかり、よい指導者がいて、運がよかっただけですよ。」と言う一条さんですが、これまで五回応募して、いずれも入選、一昨年にも市長賞を受賞している実力派です。

性格的に凝り性で、何かを始めると熱中しやすいタイプ。その辺が市長賞を呼び込んだのかもしれません。

盆栽・カラオケ・パソコンなど趣味はほかにも多彩、一男一女のやさしいお父さんです。

あの人・この人・こんなこと

広見のスプリンター

佐藤公一君(広見町八)

毎朝五時を過ぎると、広見小学校のグラウンドでトレーニングに励む中学生がいます。この頑張り屋さんは佐藤公一君(岳陽中学校三年)。昨年夏、中学生陸上四百メートルで県東部一となり、全国大会では準決勝まで進みました。

現在は陸上界に名選手を送り出している吉原商業高校進学を目指して勉強中です。

なぎなたに魅せられて

大橋あさ子さん(桜ヶ丘町)

「はかま姿で道場に入ると身が引き締まります」という大橋さんは、市内でただ一人のなぎなた指導者。

十八歳のときからなぎなたを始め、その剛健さと優美さに魅了されました。

現在は週三回、吉原柔剣道場を会場に、小学生から熟年世代まで約四十人に教えています。

酒の違いのわかる男

内藤啓司さん(若松町三)

内藤さんは二月に行われた「全国きき酒選手権大会」で第十位に入賞しました。これは「純米酒」や「原酒」など六種類の酒を飲みわけるもので、県内では酒の違いのわかる男ナンバーワン。

「大勢で飲むのが一番」と言う内藤さんですから、隣近所のコミュニケーションも円満で、飲めば愉快になる明るいお酒です。